

原著

韓国における工業高校生の自己概念と職業に対する接続意識の関連性
Relationships between Students' Self-Concept and Consciousness regarding Connection between
Studies and Jobs in Korean Technical High Schools

島田 和典*, 黄 修演**
Kazunori SHIMADA Suyeon HWANG

*東京学芸大学 教育学部
Faculty of Education, Tokyo Gakugei University
**議政府工業高校(韓国)
Uijeongbu Technical High School, Korea

要旨

本研究は、韓国における工業高校生の自己概念と職業に対する接続意識との関連性を検討することである。韓国に学ぶ工業高校生 521 名を対象に、島田らの「工業高校生の自己概念尺度」及び、半澤らの「学業と職業の接続意識尺度」を用いた調査を実施した。431 名の有効回答に対し、接続意識を基準変数、自己概念を説明変数とした変数減少法による重回帰分析を実施した結果、全体として、自己概念の社会的価値志向性を高めることが、生徒の理想及び現実の職業に対する接続意識の高まりにつながる可能性を示した。また、進路希望別の検討の結果、就職希望群(n=255)では、卒業後の進路や職業に対する希望や知識を習得しようとするキャリア志向性の重要性が示された。一方、進学希望群(n=84)では、自己を見つめ、他者からみられている自己に対する意識である自己モニタ志向性の負の影響力が、理想の接続意識に対して認められた。進学希望群の生徒は、現在学んでいる内容と就職とが、現実の自己と照らし合わせる中でうまくつながりを持っていないことを指摘し、生徒個人の将来を多角的な視点から見据えた進路指導の必要性を指摘した。
キーワード：工業高校、自己概念、職業に対する接続意識、進路指導、韓国

調査・研究

特集 工業教育研究会 報告

「工業高校の未来を拓くテクノロジストの育成」
次期学習指導要領改訂に備えて

A Special Story The Report of Industrial Education Workshop

- Encouraging Technologists as Potential Leaders to Pave the Future of Industrial High School -

委員 ◎ 中村 豊久 石坂 政俊 長田 利彦 工藤 雄司
田中 正一 豊田 善敬 仲道 嘉夫 (◎委員長)

Commissioner: ©Toyohisa NAKAMURA, Masatoshi ISHIZAKA, Toshihiko OSADA, Yuji KUDO,
Shoichi TANAKA, Yoshinori TOYODA, Yoshio NAKAMICHI (©Chairman)

要旨

高校から大学への進学率は地域によっても異なるが、多い地域では5割を超えている。これに対して、工業高校では、校名を「科学技術高校」、学科名を理数学科等に変えるなど、教育内容も進学対応に変更する学校が現れ多様化してきた。一方、週5日制になり、ほとんどの工業高校は3カ年の総授業時数は90時間に減少し、その結果、専門科目も実質的時間数は削減されてきた。このようなことから、17年前に当研究会・学会が提言したテクノロジストの育成は、厳しい状況になっていると言えよう。そこで改めて工業高校のあるべき姿とは何かと言う根源的な確認から始めることにした。さらに未来の工業高校卒業生の人物像をイメージし、それに応える工業高校の教育課程を調査・検討したので報告する。

キーワード：教育課程、テクノロジスト、SMS、キャリア・アンカー、カリキュラム・マネジメント

Keywords: Curriculum, Technologist, Sense・Manner・Spirit, Carrier anchor, Curriculum・management